

介護事業部 ヘルパーセンター 好事例シリーズ⑪

「一日二回の定期訪問が、
必要なくなった」

～事例分類～

健康状態 / 理解・行動 / **ADL** /
家事・IADL / QOL / 介護状況

ヘルパーさんとのかかわりが
どんな変化をもたらしたのか、
読んでみるまも♪



スライド全6枚

【事例情報】

○90歳前半 ○男性 ○介護度3

【Before】令和3年1月頃

高齢の妻と二人暮らし。痔の為下血あり入院後、退院し自宅に戻ったが、食欲不振による体力低下と認知症のため、排泄の失敗が多く、衣類の汚染があってもそのまま過ごしていた。




【After】令和3年5月中旬

必要な支援を受けることで、ご本人の生活が安定し、**妻の介護負担が軽減**された。

入退院時に低下した**ご本人の体調も徐々に回復**し、移動・排泄動作もスムーズになり、**尿漏れが減少**した。段階を経て定期訪問の回数が減り、朝7:00~7:30と夜21:30~22:00の**定期訪問が休止**となった。



経過

障害要因・背景	サービス・ケア内容	サービス提供のねらい
<p>認知症と、排泄機能の低下により、清潔が保たれない。</p> 	<p>朝夜の定期訪問で、洗浄・清拭・リハビリパンツの交換や汚染衣類の確認・皮膚状態の観察・軟膏塗布を行う。</p>	<p>習慣でご自分で出来る着替え・洗面・口腔ケアは継続しながら、排泄で困難な部分のみ介助し、臀部の皮むけやかき傷等の皮膚状態の悪化を防ぐ事が出来た。</p>
<p>腰痛もあり、高齢な妻にとって、洗濯物が増えることは介護負担になっている。</p>	<p>汚染を確認し、洗濯の必要な衣類を分ける。また、就寝時の排尿量や汚染状況を確認し、適切なオムツ等の検討で、尿漏れを防ぎ洗濯物を減らす。</p>	<p>朝夜の訪問により、シーツ等ベッド周りの汚染を防ぐ事が出来、妻の負担を軽減出来た。</p>

事例提出者からのアピールポイント

項目	内容
ご自分での排泄が続けられる様、リハビリパンツの検証を行った。	<p>尿汚染の心配から、初めは夜間テープ式オムツと尿取りパットを使用していたが、ご自身でトイレに行くことが可能な場合もあり、その際テープ式オムツの使用ではトイレで上手く着脱が出来ない事が解った。</p> <p>何種類かのリハビリパンツで尿漏れの検証を行った結果、ボクサータイプにおいては、ご自身で排泄可能かつ尿漏れがないことがわかった。</p>
関係機関とのスムーズな連携。	ケアマネジャーが以前に当会職員だった事もあり相談しやすく、生活状況に合わせた時間変更（21：00～21：30を3月から21：30～22：00に変更）にも迅速に対応して頂き、訪問看護とも連携が細やかで、都度の変化に対応出来た。
ご夫婦の在宅生活を継続するため、必要時の再開に備える。	ご夫婦の体調の変化や状況により、随時対応の再開出来る様に休止とした。

💡事例へのコメント💡

ご高齢者が入院をすると、筋力や体力の低下、認知機能の低下や低栄養など、退院後に自力で生活することが難しくなることがあります。今回の事例のように、退院後、ご利用者様へ寄り添い支援する中で、徐々にご利用者様の体調が回復し、ご自身でできることが増え、妻の介護負担の軽減に至った支援の背景には、**ご本人やご家族へ関わる介護者が、ご本人やご家族が望む「本人らしい生活」を共有し、ご本人の状態の変化を見極め、チームでご本人らしい生活の再構築にむけた支援ができたからこそ**と思います。

また、そのためにはご利用者様の日々の生活における**少しの変化への「気づき」が重要**です。今回の事例においても、ご利用者様の生活に密着して支援するヘルパーだからこそ、少しの変化に気づき、状態の変化が見極められ、ご利用者様にとっての自立支援ができたものと思います。

これからも、ご利用者様の「本人らしい生活」の実現にむけて、ご利用者様の生活に密着して支援するヘルパーだからこそその**「気づきのアンテナ」**を張っていただきながら、日々のご支援をお願いいたします。

【札幌市社会福祉協議会 地域包括課】



私たちと一緒に 働きませんか♪

お友達を紹介して
ほしいまも

ヘルパー募集のご案内はこちら！



社会福祉法人札幌市社会福祉協議会
介護事業部



まもりん